

目指す学校像	1 教職員の創意工夫を生かし、生徒一人ひとりが、挑戦し、煌々学校。2 よき伝統と校風を継承・創造し、安全安心で、地域に根ざし誇れる特色ある学校。
--------	--

重点目標	1 学びの自律化と個別最適化に向けた情報端末、スタディサプリの効果的な活用と授業改善 2 生徒理解に基づく教育相談・生徒指導と心の教育の充実 3 よき伝統と校風の継承・創造を目指し、地域とともに歩む学校づくり 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい(WELL-Being)学校をつくる教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価					年度評価		学校運営協議会による評価	
年度目標					年度評価		実施日令和6年2月26日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査や市学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ下回っている。 ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均と比べ社会でやや高いが、他の教科では、全体的に低い傾向にある。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から特に国語の「書くこと」「読むこと」及び数学の「数と式」「図形」の正答率が低く、基礎学力の向上が課題である。 ○学びに向かう力が高まっておらず、生徒が学習することの意義や充実感、達成感を味わえるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化された指導方法の工夫 ・自発的な学習を促す取組の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習に対する苦手感を取り除き、学習に対する関心意欲を高めるための指導にはICTやデジタル教科書の活用やスタディサプリを効果的に活用していく。 ②「よい授業」の視点を参考に生徒の実態に応じた、わかりやすく楽しい授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価に係る生徒アンケート「教え方に関する工夫をしていて、わかりやすい授業が多い。」の肯定的な回答の割合が90%以上 ②学校評価に係る生徒アンケート「授業の中で自分で考えたり考えを深めたりする機会がよくある」の肯定的な回答の割合が90%以上 	<p>学校評価生徒アンケート「教え方に関する工夫をしていて、分かりやすい授業が多い」の肯定的な回答の割合は93%と上回った。また、「授業の中で自分で考えたり考えを深めたりする機会がよくある」の肯定的な回答の割合も97%とたいへん高い水準であった。</p>	A	<p>ICT機器、スタディサプリ等を利用した授業の工夫(資料動画や画像の提示、音読課題、データ共有など)をさらに多くの教科で有効に実施していく機会を増やしていくことにより、生徒により良い使い方を浸透させ学力向上につなげていきたい。</p>	<p>学校運営協議会からの意見・要望・評価等</p> <p>学級会の討議の仕方について、全校を挙げて取り組み、その方法を教科にも応用している。教科横断的に主体的、協働的な場合を意図的に作り出しているところが評価できる。また、小・中で連携を図り、小学校の学習スタンダードを積極的に吸収しようとする教職員の姿勢が伝わってくる。基礎・基本も大事ではあるが、これからの時代は自分の意見をしっかりともち、理論的に伝えることのできる資質が必要となる。教員には、授業の中で、生徒が積極的に発信する機会をより多く提供してもらいたい。</p>
2	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を大きく上回った。 ○昨年度、施設設備の不具合等が原因のケガは、2件、自転車で登校中の転倒によるケガが4件発生した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日頃からの教職員の努力により、生徒にとって居心地のいい学校づくりが構築されていることから基礎学力向上へと繋げていきたい。 ○教職員による施設設備の安全点検や交通安全指導を行うだけでなく、生徒自身が、自ら危険を予測したり、回避する力を育むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりへ寄り添った教育支援・相談に向けた校内体制の構築 ・健康で安全な生活の実現に自主的に取り組む生徒の育成に向けた校内体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育相談部会を中心に相談室、SC、SSWと相談活動を行い、生徒の悩みや相談を把握し適切に対応する。 ②毎日の施設設備の安全点検の実施と新入生を対象とした自転車安全教室を地域の自動車教習所と連携して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価に係る生徒アンケート「学校は差別やいじめがなく、思いやりのある友達が多い」の肯定的な回答の割合が95%以上 ②学校評価に係る生徒アンケート「学校の施設や設備は安全で快適に生活が送れるようになっている」の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 	<p>学校評価生徒アンケート「学校は差別やいじめがなく思いやりがある友達が多い」の肯定的な回答の割合は、95%で達成することができた。</p> <p>学校評価生徒アンケート「学校の施設や設備は、安全で快適に生活が送れるようになっている」の肯定的な割合は96%と高い評価であった。</p>	A	<p>「差別を許さない生徒」の育成に向け、今後も生徒の抱えている諸課題を把握し、生徒の心に寄り添った配慮ある対応を継続していく。安全で健康な学校生活を送っていくために教育環境を整え、課題のある箇所については、早急に改善していく。</p>	
3	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度、本校学校運営協議会において学校教育ビジョンである「学力向上、自助・共助、人権教育」について熟議を積み重ねたため、見出し、地域の方々と協働して課題解決していく生徒を地域全体で育てていくことを共有した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度は、昨年度の学校運営協議会で共有した目指す生徒の姿を家庭、地域に広め、地域の方々と共有できるようにしていく。また、生徒の「学力向上、自助・共助、人権教育」についてさらに熟議を重ね、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動へ向け、歩みだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育ビジョンを地域全体で共有するための教育活動の公開 ・生徒の自律につながる継続的な取組に向けた慈恩寺中コミュニティ・スクールの策定と行動 	<ul style="list-style-type: none"> ①本校HP内に学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、学校教育ビジョンである「学力、自助・共助、人権教育」を広く共有できるようにする。 ②学校行事等について、学校に係る方々が参観できる仕組みを整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価にかかる保護者アンケートにおいて「学校は、教育活動を保護者や地域の人々に公開していますか。」の肯定的回答90%以上となったか。 ②学校評価にかかる保護者アンケートにおいて「学校は、保護者や地域の人々の願いに応えていますか」の肯定的回答90%以上となったか 	<p>学校評価保護者アンケート「学校は、教育活動を保護者や地域の人々に公開していますか。」の肯定的評価は、90%で達成することができた。</p> <p>学校評価保護者アンケート「学校は、保護者や地域の人々の期待や願いに応えていますか。」の肯定的回答は84%と6%至らなかった。</p>	B	<p>学校運営協議会において熟議を重ねた学校教育ビジョンを地域全体で共有し、学校内だけでなく、学校、保護者、地域で生徒を育てていけるよう引き続き取り組んでいきたい。教育活動については、可能な限り、保護者、地域に積極的に公開していきたい。</p>	
4	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エヴァンジェリストや教務主任らが中心となり研修を重ねてきた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTの活用については、職員間で取組の差が見られるが、誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地の良い学校をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ①一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を学期に1回以上公開する。 ②スタディサプリ活用研修、STEAMS TIME研修、人権講演会等の研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価に係る教職員アンケート「生徒が進んで学べるよう、学びの指標の質問項目を意識し、授業の改善に努めたか」肯定的回答3.0以上となったか。 ②学校評価に係る教職員アンケート「学習指導にICT機器を効果的に活用できたか。」肯定的回答3.0以上となったか。 	<p>学校評価に係る教職員アンケート「生徒が進んで学べるよう、学びの指標の質問項目を意識し、授業の改善に努めたか」肯定的回答が3.0と達成できた。「学習指導にICT機器を効果的に活用できたか。」肯定的回答3.0で達成することができた。</p>	A	<p>生徒、教職員一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地の良い学校をつくるために新たな学びのスタイルとなったICT機器活用方法、人権教育の研修会を適切に実施していく。</p>	

目指す学校像	1 教職員の創意工夫を生かし、生徒一人ひとりが、挑戦し、輝く学校 2 よき伝統と校風を継承・創造し、安全安心で、地域に根ざし誇れる特色ある学校
--------	--

重点目標	1 学びの自律化と個別最適化に向けた情報端末、スタディサプリの効果的な活用と授業改善 2 生徒理解に基づく教育相談・生徒指導と心の教育の充実 3 よき伝統と校風の継承・創造を目指し、地域とともに歩む学校づくり 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい (Well-being) 学校をつくる教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査や市学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ下回っている。 ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均と比べ、全体的に低い傾向にある。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から特に国語の「書くこと」「読むこと」及び数学の「数と式」「図形」の正答率が低く、基礎学力の向上が課題である。 ○学びに向かう力が高まっておらず、生徒が学習することの意義や充実感、達成感を味わえるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適に学ぶ」生徒の育成 ・「自発的な学習」をする生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習に対する苦手感を取り除き、学習に対する関心意欲を高めるための指導にはICTやデジタル教科書の活用やスタディサプリを効果的に活用する。 ②「学びの指標」の視点を参考に生徒の実態に応じた、わかりやすく楽しい授業を実践する。 ①見通しをもたせるために単元計画及び授業内目標を提示する。 ②多様な他者との話し合いを通じ、自己のキャリアを形成していくための「学級会の手引き」(小中一貫)を活用した学級討議を行う。(月1回)また、チャレンジスクールの効果的な利用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価に係る生徒アンケート「教員にいろいろな工夫をしていて、わかりやすい授業が多い。」の肯定的な回答90%以上。 ②学校評価に係る生徒アンケート「授業の中で、自分で考えたり考えを深めたりする機会がよくある」の肯定的な回答90%以上。 ①生徒アンケートで「将来の夢に向かって生活や勉強の工夫をしているか」の肯定的な回答90%以上。 ②生徒アンケートで「将来の夢に向かって生活や勉強の工夫をしているか」について、肯定的な回答の上昇。チャレンジスクール利用者の昨年度より5%以上の増加。 					
2	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を大きく上回った。 ○昨年、校内でのケガや自転車の事故、生活習慣の乱れのある生徒がいた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日頃からの教職員の努力により、生徒にとって居心地のよい学校づくりが構築されていることから基礎学力向上へと繋げていきたい。 ○教職員による施設設備の安全点検や交通安全指導を行うだけでなく、生徒自身が、自ら危険を予測し、回避する力を育むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりへ寄り添った教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・「健康で安全な生活の実現に主体的に取り組む」生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ①スクールダッシュボードを活用し、生徒が生き生きと学べるためのプロアクティブな生徒指導及び、親身になって寄り添える教育相談体制(Solaる一むを含む)を確立する。 ②毎日の施設設備の安全点検の実施と新入生を対象とした自転車安全教室を地域の自動車教習所と連携して実施する。 ①健康委員による校内の健康安全について調査し、発表していく活動を通して生徒一人ひとりが自主的に健康で安全な行動がとれるようにする。 ②煌委員会では、生徒自ら自主的に安全安心な学校生活について考え、全体に啓発していく 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価に係る生徒アンケート「学校は差別やいじめがなく、思いやりのある友達が多い」の肯定的な回答95%以上。 ②学校評価に係る生徒アンケート「学校の施設や設備は安全で快適に生活が送れるようになっていく」の肯定的な回答90%以上。 ①学校評価に係る生徒アンケートにおいて健康に関連する肯定的な回答90%以上。 ②煌委員会を開催し、生徒が安全な生活の実現に向けて目標を設定し、達成できたか。 					
3	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度、本校学校運営協議会において学校教育ビジョンである「学力向上、自助・共助、人権教育」について熟議を積み重ねた。自ら課題を見出し、地域の方々と協働して課題解決していく生徒を地域全体で育てていくことを共有した。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度は、昨年度の学校運営協議会で共有した目指す生徒の姿を家庭、地域に広め、地域の方々と共有できるようにしていく。また、生徒の「学力向上、自助・共助、人権教育」についてさらに熟議を重ね、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動へ向け、歩みだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育ビジョンを地域全体で共有するための教育活動の公開 ・生徒の自立につながる継続的な取組に向けた慈恩寺中コミュニティ・スクールの策定と行動 	<ul style="list-style-type: none"> ①本校HP内に学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、学校教育ビジョンである「学力向上、自助・共助、人権教育」を広く共有できるようにする。 ②学校行事等について、学校に係る方々が参観できる仕組みを整える。 ①学習状況調査の結果分析等の客観的データを利用し、生徒の自律につながるコミュニティ・スクールへと成長を図るための計画を策定する。 ②策定した計画に基づき、具体的な方策を定め、学校と地域が協働した取組を始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価に係る保護者アンケートにおいて「学校は、教育活動を保護者や地域の人々に公開していますか。」の肯定的な回答90%以上。 ②学校評価に係る保護者アンケートにおいて「学校は、保護者や地域の人々の願いに応じていますか。」の肯定的な回答90%以上。 ①学校評価に係る保護者アンケート「学校は伝統や校風などを生かして、特色ある学校づくりを行っていますか」の肯定的な回答90%以上。 ②学校評価に係る学校運営協議員アンケート「学校は保護者や地域の人々の期待や願いに応じていますか。」の肯定的な回答3.0以上。 					
4	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストや研究主任らが中心となり研修を重ねてきた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTの活用については、職員間で取組の差が見られるが、誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を学期に1回以上公開する。 ②スタディサプリ活用研修、STEAMS TIME研修、人権講演会等の研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価に係る教職員アンケート「生徒が進んで学べるよう、学びの指標の質問項目を意識し、授業の改善に努めたか。」肯定的な回答3.0以上。 ②学校評価に係る教職員アンケート「学習指導にICT機器を効果的に活用できたか。」肯定的な回答3.0以上。 					